

## 1. 食鳥検査成績から見た衛生管理対策の検討

広島県東部家畜保健衛生所 りょうじ み き こばたけ きょうこ ○龍治 美希、小畑 恭子

### 1 はじめに

肉用鶏の1農場（以下、A）で、死亡羽数の増加による報告が年間を通じて頻発し、病性鑑定等の対応及び指導を行ってきたが、改善が図られないことから、系列の5農場（以下、B～F）を含め、食鳥検査成績等の調査により、疾病の発生状況を把握し、今後の衛生管理対策を検討した。

### 2 調査方法

農場の疫学調査、死亡鶏報告（平成26年6月～平成27年5月）及び過去の病性鑑定成績（平成21年度～平成27年度）を集約するとともに、食鳥検査成績（期間①：平成26年6月～平成27年5月【A～F】、期間②：平成24年6月～平成25年5月【Aのみ】）について分析を行った。

### 3 成績

- (1) 疫学調査：Aは24鶏舎（開放12棟・無窓12棟）で約15万羽飼養しており、B～Fと比べ大規模な農場であった。Aの開放鶏舎（以下、A開放）は、7年前に換気扇の数や容量等を改善するとともに、夏期の飼養密度を低くしていた。
- (2) 死亡状況及び病性鑑定等：Aの死亡率は他農場と比べ約2倍高く、原因も大腸菌症、管理失宜等であったのに対し、他農場は、暑熱による死亡が主体であった。
- (3) 食鳥検査成績：AとBで大腸菌症と炎症による全部廃棄率（以下、全廃）が高く、月別で見ると、Aが年間を通じて高かったのに対し、Bは1月、3月及び4月のみ高かった。また、Aのウィンドレス鶏舎（以下、A無窓）とA開放を比較すると、A無窓での全廃が、年間を通じて高く推移していた。Aの期間①と期間②の全廃を比較したところ、期間①が高かった。

### 4 考察及びまとめ

AとB～Fで食鳥検査成績に違いが認められ、その原因として鶏舎構造等の飼育環境が関与していると考えられた。また、A無窓は古く設備が故障しやすいことで、A開放に比べ全廃が高くなったと考えられた。死亡率を抑制するためには、各農場に見合った衛生管理指導が必要となるため、今後も関係機関と連携し食鳥検査成績を活用した農場毎の衛生対策指導を図っていきたい。